

# 2024 AUTOBACS SUPER GT Rd.2 FUJI GT 3Hours RACE REPORT



## SUPER GT 2024 第2戦 富士 レースレポート

開催日：予選 5月3日／決勝 5月4日

開催地：富士スピードウェイ

### 予選レポート

5月3日、富士スピードウェイも好天に恵まれ、予選が始まる直前の気温は24℃、路面温度は35℃となった。GT300の予選は、出走マシンがランキングによって振り分けられ、9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」はA組に振り分けられての予選となる。A組とB組の出走順は、すでに開幕戦岡山の優勝記者会見時にクジ引きにより決定。第2戦富士の予選Q1は、B組の走行から始ま

ることとなっている。

14時25分にその予選Q1のB組からスタート。滞りなく予選Q1 B組の走行が終わると、引き続き14時43分よりA組の予選が始まった。

「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」の予選Q1を担当するドライバーは阪口良平選手。走行開始早々からコースインをし、入念にタイヤを温めな





から、8分経過後より徐々にタイムを上げていく。1分37秒台をコンスタントに叩き出し、チェッカー直前に最後のアタックラップに突入。1分37秒138というタイムで予選Q1を終了した。予選Q2では、Q1各組の9位以下で競われるグループ2での走行となる。

予選Q2とスタートラップでは同じタイヤを使うことは開幕戦岡山と同様。さらに、この第2戦富士では3時間のタイムレースとなり、予想される周回数は100周を超える。そんな状況下での作戦の上でのタイムだと言える。

また、予選Q2のグループ2でQ1との合算タイ

ムが上位4台に入り、グループ1の合算タイム下位4台よりタイムが速ければ、ポジションを入れ替えることのできる権利が発生する。そのため、「少しでもスターティンググリッドを前にする」という作戦も取ることが出来る。

予選Q2では、グループ2からの走行が15時18分から開始された。9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」のドライバーは富林勇佑選手。すでにQ1を走行したタイヤなので、熱入れはある程度進んでおり、3周目からという早い段階からタイムアタックが開始された。そして、残り時間3分を切ったところで、1分36秒582という好タイムを記録。グループ2でQ1との合算タイム2番手となり予選を終了した。15時36分からの予選Q2グループ1の結果を待ってのスターティンググリッド決定となる。

この予選Q2グループ1の結果により、グループ2から3台のマシンが順位の入替えとなった。それにより9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」は、GT300の14番グリッドからの決勝スタートが決定した。





## 決勝レポート

5月4日、第2戦決勝日の富士スピードウェイには約5万4千人という大観衆が詰めかけ、このレースシリーズの人気を物語っていた。天候は良く晴れ渡り、気温はスタート時の13時30分で23℃、路面温度は40℃。約5万4千人の大観衆にとっては過ごしやすい気候と言えよう。

そんな中、13時30分に静岡県警察の白バイ9台、パトロールカー4台が先導しての交通安全啓発活動のパレードラップからフォーメーションラップ。そして、いよいよSUPER GTでは初めての3時間レースが始まった。

GT300の14番グリッドから上位を目指す9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」のスタートドライバーは阪口良平選手。オープニングラップからスプリントレース並みのスピードで展開する中、阪口選手は好走。3周目までに順位をひとつ上げて13位となっていた。そこからは淡々と周回を重ねていくレースが続くが、レース開始1時間を過ぎてライバルがピットインを給油を伴うピットインを始める中、9号車「PACIFIC ぶいすぽっ

NAC AMG」の阪口選手はなかなかピットインをしてこない。ピットインのタイミングをなるべく遅らせることにより、その後にチームが取れる選択肢を増やすというのは当初よりの作戦ではあるものの、予選Q1とQ2を走ったとは思えないタイヤの仕上がりで、1時間10分以上を走行。3番手まで順位を上げてから、GT300では2番目に遅い段階での43周目にピットインした。タイヤを4本すべて交換し、ドライバーを富林勇佑選手に交代する。

富林選手も1分38秒から39秒台というペースでラップを重ね、前を行く20号車「シェイドレーシング GR86 GT」を追い抜き順位を上げて行った。GT500クラスが75周を超えたあたりから、GT300クラスのライバルたちも2回目の給油を伴うピットインを始めていくが、9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」の富林選手もなかなかピットインをしてこない。ライバルがピットインをしていくと自ずと順位は上がっていき、GT500クラスの97周目、残り時間32分ほどで7位となったとこ





ろでピットイン。富林選手は、ほぼ全ての燃料を使い切るところまで、ピットインのタイミングを伸ばしていたのである。

そして最終スティントは、今回のレースがSUPER GTデビューとなる藤原優汰選手。4本をニュータイヤに交換してのアウトラップとなる。そんな藤原選手は、残り時間約30分ほどのデビューレースでどんな走りを見せるのか？

アウトラップには数台に抜かれる場面もあったが、タイヤが温まってからは後続から絡んでくるライバルを、9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」持ち前のストレートスピードで置き去りに。

デビューレースとは思えない落ち着いた走りを見せながら周回を重ねていく。3時間を過ぎ、GT500クラスのトップがチェッカーフラッグをくぐった頃に、GT300のライバルが燃料切れで止まったりと脱落していく中、9号車「PACIFIC ぶいすぽっ NAC AMG」は12位でチェッカーフラッグを受けての完走を果たした。

開幕戦の岡山から大きく順位を伸ばした第2戦富士。ポイント圏内まであと少しの12位まで来たというところで、チームに流れるポジティブ空気は、「次戦、第3戦鈴鹿で大きな花を咲かせるかもしれない」という印象を抱かせるものであった。





## エントラント代表 神野元樹



作戦が上手くハマった強いレースが出来たことで、チーム全体にいい空気が流れています。次戦の鈴鹿では、いよいよしっかりとした結果を手に入れることが出来るのではないかと期待しています。

## 阪口良平 選手

スタートからスプリントレースのような展開で激しいレースでしたが、クルマのパフォーマンスはそれなりに出したかな、と思います。3時間レースを走り切ることで思うところもだいぶ見えてきたので、次はそこを生かしていきたいと思います。ポイントも見えてきたことでかなりいいレースだったと思います。



## 富林勇佑 選手

第2スティントは燃料が無くなるまで、1時間15分くらいの走行となりました。アウトラップから20号車を抜くまでは絡みながらの走行でペースも遅めでしたが、抜いてからは1分38~39秒当たりで走れてペースもよかったと思います。ポイントも見えてきたレースではありましたが、セッティングを含めてまだまだやれることが多いと思います。藤原選手もデビューレースで色々大変だったとは思いますが、いい走りを見せてくれたこともあり、今後につながるレースとなったと思います。



## 藤原優汰 選手

デビューレースとして最後のスティントの30分を走らせてもらいました。タイヤが温まってからは抜かれることも無く淡々と走ることが出来ました。自分のクセとしてフロントタイヤを使ってしまうところがあるので30分のスティントだから持ちましたが、もし1時間のスティントとなったら持っていなかったかもしれません。そこがこれからの課題だと思っています。次回の参戦は、次戦の第3戦鈴鹿3時間レースとなります。

